

## 家庭科 学習指導案

大阪府立千里高等学校  
授業者 小林 千晶

1. 日時 平成30年12月20日（木） 第5 限（13:10～14:00）

2. 場所 被服教室

3. 学年・組 総合科学科 1年4組（40名）

4. 単元名 衣生活「装う」1節「人の一生と被服」

使用教科書：「家庭基礎 ともに生きる・持続可能な未来をつくる」（第一学習社）

### 5. 単元目標

- ・被服のなりたちに関心を持ち、意欲的・主体的に学習活動に取り組んでいる。（関心・意欲・態度）
- ・被服の機能性や快適性について考察し、安全で健康的な被服の管理や、目的に応じた着装を工夫することができる。（思考・判断・表現）
- ・被服材料、被服構成について理解し、被服の管理に必要な技能を修得している。（技能）
- ・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解し、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。（知識・理解）

### 6. 教材観

高校生として衣生活の分野を学ぶに当たり、自立した生活者となるために、被服材料の知識や被服管理の技能の習得が不可欠であることを認識する。本時はその導入として、被服の起源と被服着用の理由について理解させる。また、目的に合わせた着装についても学習する。

### 7. 生徒観

本校は制服がなく、日々の衣服は生徒自身で選び、着装している。それだけに、T・P・Oに合わせた着装は何かを考える機会は多く、行事のときの様子をみても大半の生徒は理解しているように見受けられる。また、被服には自己表現の意味もあり、その面でも多くの生徒が高校生としてのファッションを楽しんでいる。ただ、当該クラスの総合科学科は男子生徒が多く、日々の服装はいつもクラブジャージであったり、「装う」「着る」ことに特に意識や関心を払っていない生徒も多いように思う。

### 8. 指導観

一枚の布をもとに被服の成り立ちをまず考え、表現してみることで、衣服とは何かに関心を持たせたい。日々の衣服を書き出し、その目的を整理することで、自分が日常的に行っている「着る」ことへ意識を向けさせたい。その上で、被服の持つ意味を再認識してもらおう。また、T・P・Oに合わせた服装の知識も得てほしい。

9. 単元の評価基準

a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 技能	d. 知識・理解
・ 着 装、被服材料、被服の構成、被服製作、被服管理などの衣生活の科学と文化に関心を持ち、主体的に学習活動に取り組もうとしている。	着 装、被服材料、被服の構成、被服管理などについて課題を見出し、その解決に向けて思考を深め、適切に判断し、表現している。	主体的に衣生活を営むために必要な被服製作、被服計画などの技術を身につけている。	・ 着 装、皮膚くい材料、被服の構成、被服製作、被服管理などについて科学的に理解し、安全と環境に配慮した衣生活を主体的に営むために必要な知識を身につけている。

10. 単元の指導と評価の計画（全5時間）〈※2年次「生活科学」のもの〉

〈※1年次では「基礎縫い」2時間、布絵本製作10時間〉

第一次 「人の一生と被服」

- 第一時 「被服の機能」（本時）
- 第二時 「被服の構成」
- 第三時 「色相とトーン」

第二次 「被服材料と管理」

- 第四・五時 「布の三原組織」
- 第六・七時 「繊維の種類と特徴」

	学習活動	評価の観点				評価基準・評価方法
		a	b	c	d	
第一時（本時）	一枚の布を切らずに縫わずに、ズボン形式の衣服にするにはどうすればよいか、グループで考え、発表する。	●				・ 同じグループの他の生徒と協力し、ズボン形式の衣服を完成させている。
	日常の衣服を書き出し、場面によってどのような意味を持つかを考える。衣服の持つ機能とTPOに合った服装とは何かを知る。		◎			・ 日常の場面で身に着けている衣服を書き出し、その目的を整理する。
第二時	紙とのりを使い、ゆかたとズボンを組み立てる。		◎			・ 平面構成と立体構成について特徴をまとめ、感想を記入している。
	作りやすさや構成を知ること、平面構成と立体構成の特徴を知る。			◎		・ 紙によるズボンとゆかたの製作ができ、プリントに貼って提出できている。
第三時	色鉛筆を使った自己紹介から、色の持つ心理的効果を知る。 資料集ワーク用シールを使い、色相とトーンを理解し、プリントに貼る。		◎			・ 色相とトーンについて理解し、同じトーンや近い色相など、指示通りにカラーシールを貼ることができる。

第四・五時	布の三原組織について知り、プリントのマス目に色を塗る。		◎		・三原組織について理解し、プリントに正しく色が塗られている。
	あまりの被服材料で裂き折りをしてコースターを作る。	○		◎	・時間内に正確に作品を作り、提出できている。
第六・七時	繊維の種類を知り、そのうち羊毛繊維の特徴を知った上で、特性をいかしたフェルトコースターを作る。	○		◎	・時間内に工夫をした作品が提出できている。

## 11、本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・被服の構造や起源などに意欲・関心を持ち、学習に取り組む（意欲・関心・態度）
- ・どのようにすればズボン形式の衣服ができるかを考え、表現することができる。また、日常で身に着けている衣服の目的を考え、判断し、プリントに表現できる。（思考・判断・表現）
- ・むすぶ、巻く、など限られた時間でズボン形式の衣服を製作するために、グループ内で情報を交換し、協力できる。（技能）
- ・被服の持つ意味やTPOに応じた服装を理解する。（知識・理解）

### (2) 本時の評価基準

a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 技能	d. 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な活動を通して、被服の機能と着装について関心を持ち、人間と被服の関わりについて考えようとしている。</li> <li>・高校生の着装に関心を持って学習に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ズボン形式の衣服を班ごとで考え、作品として表現し、発表できている。また、他の班の作品に目をむけ、違いに気がつき、記入できる。</li> <li>・服装を振り返り、目的や意味を正しく分析し、プリントに記入している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の生徒と協力し、必要な情報を意見交換しながら作品を制作している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服の起源や目的に合わせた着装について理解している。</li> <li>・人の体系、身体の動き、社会的立場、被服の思考などが各ライフステージによって異なることについて理解している。</li> </ul>

### (3) 本時の準備物

教科書、資料集、プリント

2mの布、2mのひも、タイマー、板書掲示

(4) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価基準（評価方法）
導入 (3分)	○本時の目標 衣服の機能についての理解	●こちらを向き、話を聞く雰囲気を 作る	◎集中して話を聞いているか。 【a】
展開① (15分)	○グループ内で着装する人 を一人決める。 ○一枚の布を、切らずに縫 わずにズボン形式の衣服を 作るにはどうすればよい か、グループで考え、着装 する。 ○出来上がった作品を作り 方を含め、プリントに記入 する。	●時間を提示し、グループごと にできあがったズボンを最 後に発表することを伝える。 ●早くできたグループはも っと着崩れないズボンにし るにはどうしたらよいか考 えさせる。 ★苦戦しているグループに はヒントになるよう声かけ をする。 《机間指導》 ●ある程度形になっている グループは着席し、プリン トに記入させる。	◎関心を持って取り組んで いるか。【a】 ◎グループ内で協力し、よ り良い形になるよう意見 を出し合っているか。【b】 ◎プリントに作品の製作 過程をわかりやすく記入 できているか。【b】
展開② (10分)	○各班できあがったズボ ンを皆の前で発表する。 ○資料集を基に、世界に は様々な形式の衣服があ ることを知る。	●他の班の作品に目をむ け、自分の班との違いを 考えさせる。 ●取り組んでみて、また、 他の班を見て、の感想を 書く。	◎他の班の作品をきちん と見ているか。【a】 ◎プリントに気がついた ことを記入できているか。 【b】
展開③ (10分)	○一日の様々な場面で、 どのような衣服を身に着 けているかを思い出し、 その衣服の持つ意味を考 え、丸をつける。	★なるべく具体的な衣服 の名前（セーターやブラウ スなど）で記入するよう 指示する。《机間巡視》	◎普段の衣服を思い出し、 プリントに記入できている か。【b】
(10分) 展開④	○衣服の持つ機能（保健 衛生的機能、社会的機能） について知る。	★前を向き、プリントに 記入するよう指示する。	
展開⑤ (5分)	○T・P・Oについてのク イズに答える。 ・解説を聞く。 ・資料に目を通す。	●クイズに答えさせ、簡 単に答えあわせをする。	
(5分) まとめ	○感想を記入し、プリン トを提出する。		

「観点別評価の判断基準」の設定

判断基準 評価基準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる
【a】	内容に関心を持ち、積極的かつ意欲的に発言し、取り組んでいる。	内容に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。
【b】	衣服の機能について、自身の生活を振り返り、具体的な記述ができている。	衣服の機能についてプリントに記入している。



C 指導の手立て
机間巡視を行い、声かけを行う。 導入の説明をしっかりと行う。
発問や具体例をあげることで、イメージを持ちやすいようにする。